

AA19970001J1

日本教育新聞 77.1.18

教職員 最低の44%

教養審で改善策検討へ

昨年三月、国立の教員養成大学・学部を卒業し、教員になった人の割合は四四・三%で、過去最低になったことが、文部省の調査で分かった。

方法のあり方などの方策を検討してもらうことにした。

児童・生徒数の減少で教員採用数が減少しているのが主な原因だが、新卒者の減少は年齢構成にアンバランスが生じ、学校経営に支障をきたすことになりかねないため、事態を重視した同省は現在、教職課程の力リキュラム改善を検討している教育職員養成審議会（蓮見昌彦会長）で、採用

学部の（二二・四%）、千葉大

公立学校の教員採用数は

児童・生徒数の減少に伴って年々少なくなってきた。平成八年度は正規職員で一万七千二百七十七人だった。前年より約一万二千人減り、採用数は、この五年間では一万五千前後で減少し続けている。

1997.

1.

18.

日本教育新聞